



209号

2015 / 12 / 1

日中文化交流市民サークル「わんりい」

東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli-san.com/>

Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp

◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。



「小さなサークルダンス」

2015年10月 中国四川省カンゼ・チベット族自治州・丹巴にて 大川健三(中国四姑娘山自然保護区管理局・特別顧問)

穏やかな晩秋の日の午後、山寺の法会の後で顔見知りの女性達や子供が寄り集り小さな輪を作って踊りを楽しみながら親交を深めている情景です。この踊りの輪は、後から他の女性達が入って来て大きくなって行きました。母系制の傾向が今も残る女王谷では、昔と変わらず、土地に根づく女性達が暮らしの場と文化を護っている事に改めて思いを深くした場面でした。

先月、円明園をご紹介した時、「英米軍の侵略の遺跡が見られなかった。私達が行かなかったところに有るのかも知れない」とお話しましたが、やはり公園の東北の隅にあるのだそうです。正確に言うと、円明園の中の「長春園」の中にあり、当時破壊された建物の遺跡が、今でもそのまま残っているとのこと。十数年ほど前には、正門を入れて直ぐに、「破壊された公園」の雰囲気があったのに、今はすっかりなくなっていたので、ちょっと不満を述べましたが、私達の回り方が悪かったようです。

この辺りはもともと湖や池が多く、背後に山を望む、風光明媚な場所で、遠く遼や金の王朝も行宮（皇帝が行幸する際の仮の宮殿）^{あんぐう}を設けていました。清朝になって、第4代康熙帝の頃から、本格的な公園の造営が始まり、最初に「円明園」が完成しました。

それから100年の間に、「長春園」・「綺春園」・「静漪園」^{せいゐ}・「静明園」・「静宜園」が完成し、纏めて「三山五園」と呼ばれました。それが1840年のアヘン戦争による南京条約、1856年のアロー号事件に端を発する第2次アヘン戦争による天津条約と、清朝には屈辱的な条約を結んだ後、1859年の清軍による英軍への攻撃が、翌（1860）年の英・仏連合軍の攻撃を誘発し、これら公園内の宮殿が両軍の略奪と焼討ちに遇って、破壊されました。

その中で「静漪園」は、現在の「頤和園」として再建されましたが、「円明園」等は、1900年にも、再び焼討ちに会い、再建不能となりました。そして北京市は、遺跡をそのまま残すと言っていたのですが、正門付近の改修で今までと随分違ってしまいました。今回、私達は遺跡をそのままにした部分を見られなかったもので、次回は、一日ゆっくり見て回りしたいと思います。因みに、現在の「円明園」は、「円明園」・「長春園」・「綺春園」の三園を総称した呼び名だそうです。

そんな訳で、先月号の補足に随分字数を費やしてしまいましたが、今月は、北京の中でも、ちょっと珍しい公園をご案内したいと思います。

皆さんは天壇公園をご存知ですよ。北京市の南の方で、王府井大街を南に真直ぐ行くと、天壇公園にぶつかります。その天壇公園の南門の更に南に、護城河という運河があるのですが、その運河に沿って西の方へ行くと、運河が直角に北上して西護城河となる少し手前に「大観園」と言う公園があります。

ここは、北京の公園としては珍しく、余り大きくない公園で、しかも有名な小説「紅樓夢」の舞台、大観園を再現したテーマパークなのです。自然石を組んで岩山を造り、木や草を植えて一纏まりの小さな庭が幾つも続き、それぞれが小説のヒロインの庭を模しているようで、小説の愛読者は、「これが林黛玉の庭だ!」とか、「ここはあの場面の舞台だ!」とかいいながら楽しんでいました。「紅樓夢」の愛読者でない私は、「こんなものか。」と思いながら帰って来ました。

この公園へ行ったのは、北京へ行くようになって3年目ぐらいでしたが、初めて、独りでバス路線を調べ、行き方を見つけて出かけました。天壇公園の東側を通過して、護城河を左に見ながら、西の方へ走り、終点の大観園の入口に到着しました。公園を見学して、帰る段になり、降りたバス停の道の反対側へ行ってみたのですが、バス停はありません。車の流れを見ると、一方通行だとわかりました。

ちょっと慌てましたが、乗ってきたバスと同系統のバスを観察すると、終点で乗客を降ろしてから更に西へ進んで右に曲がりました。同じ所から、反対方向行きのバスが出て来ましたが、運河を渡って反対側の道へ出て行きました。その道は大きな通りで、双方向車が行き来しているのですが、この路線は、来る時は運河北側の一方通行路を通り、帰りは運河の南側を通過して帰るのです。

帰りのバス停を見つけるまではドキドキでしたが、その点、北京のバス停は便利で、路線ごとに行き先だけでなく、途中の停留所の名前が全部書いてあるので、正しい路線を見つけて、無事帰宅することが出来ました。

Wú yǒu bù rú jǐ zhě
无友不如己者
己に如かざる者を友とする無かれうえだ あつお
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

孔子の弟子の子夏は、交友関係のあり方に関して、自分の門人たちに次のように教えていました。「可者と之、其不可者拒之(kě zhě yǔ zhī, qí bù kě zhě jù zhī)」「(可なる者は之に与し、其の不可なる者は之を拒げ)」「(子張第十九)」。つまり、よい人ならば受け入れ、そうでない人は近づけないように、と。

これに対して、子夏より4歳年少の子張は、この兄弟子を次のように批判しています。「异乎吾所闻。君子尊贤而容衆，嘉善而矜不能(Yì hū wú suǒ wén. jūn zǐ zūn xián ér róng zhòng, jiā shàn ér jīn bù néng)」(吾が聞く所と異なれり。君子は賢を尊びて衆を容れ、善を嘉して不能を矜れむ)。それは私が先生から聞いていることと違う。君子は優れた人物を尊敬すると同時に、そうでない多くの人たちをも受け入れるものだ。良い人と交わりを結ぶと同時に、出来の悪い人をも憐れんで手を差し伸べてやるべきだ、と。

そしてさらに続けて、「我之大贤与，于人何所不容？我之不贤与，人将拒我，如之何其拒人也？(Wǒ zhī dà xián yú, yú rén hé suǒ bù róng. Wǒ zhī bù xián yú, rén jiāng jù wǒ. Rú zhī hé qí jù rén yě)」(我の大賢ならんか、人に於いて何ぞ容れざる所あらん。我の不賢ならんか、人將に我を拒がんとす。之を如何ぞ其れ人を拒がん)」「(子張第十九)」。もし私が偉大な賢人ならばみんなが受け入れてくれるだろうし、そうでないならば相手の方から去っていくだろうから、敢えてこちらから遠ざけることはない、と言っています。

孔子より48歳年少の、気鋭の若者らしい高邁な意見です。事実、孔子は子張に対して、「寛則得衆(Kuān zé dé zhòng)」(寛なれば則ち衆を得ん)「(陽貨第十七)」。寛大な心で臨めば多くの人々の心を得るこ

とができる、と教えています。

また、自ら望む者にはすべて教育を施す、というのは孔子のモットーでもありました。「自行束脩以上、吾未嘗无海焉(Zì xíng shù xiū yǐ shàng, wú wèi cháng wú huǐ yān)」(束脩を行う自り以上は、吾未だ嘗て誨うることを無くんばあらず)「(述而第七)」とも孔子は言っています。

「束脩」とは、^{ほしにく}干肉十本を一つに束ねたもので、入門の際に収める^{れいもつ}礼物の一つでした。礼物のランクは貧富の別によって違っていて、束脩は最も低い^{そくしゅう}ランクのものです。つまり最低限の授業料を支払った以上は、相手が誰であろうと教えないということはなかった、というのが孔子の生涯を貫く教育方針でした。

ちなみに後世この束脩という言葉は月謝とか授業料という意味に使われるようになりました。それはともかくとして、この点から見れば、兄弟子に対する子張の批判は道理にかなっているように思えます。

しかし「寛なれば則ち衆を得ん」は人を指導する立場に立った時の君子の心得を言ったものです。しかし、心を許す友人を選ぶとなると話は別です。友人を選ぶ基準については『論語』では多くのことが語られていますが、その中から一つだけ選んでみましょう。

「主忠信，无友不如己者(Zhǔ zhōng xìn, wú yǒu bù rú jǐ zhě)」(忠信を主とし、己に如かざる者を友とする無かれ)「(学而第一)」。誠実と信用を第一に考え、その点で自分より劣っている者を敢えて友達にしないように。以後、この言葉は日中両国の人たちにとって友人選びの目標となりましたが、今ではどうでしょうか。

友人選びの道は、君子の道とはまた違った意味で、やはり^{けわ}陰しいようです。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

【前回のあらすじ】

山東省歴城官庁長官・殷公が住む村に、廃屋同然になった立派な建物が数多く建つ美しい庭園式屋敷があり、鬼やキツネが住むと噂されていました。ある晩、殷公は友たちと酒を飲み、酔った勢いで賭けをし、肝試しに一晚その屋敷で過ごす約束し独りで出掛けました。そして夜になって、不思議な結婚式に立ち会いました。その証拠にと金の盃を一つ袖の中に隠し、酔い潰れた様子で食卓に寄りかかって寝入った振りをしていました。



さて、殷公が寝入った振りをしている間も、結婚式は延々と続きました。笙の調べに合わせて美しい女性たちが舞い、暫くの間、聴き慣れない奇妙な楽の音が賑やかに響いていました。

「新郎新婦は失礼いたします」

と宴のまとめ役が客たちに告げると、新郎新婦は召し使いたちに囲まれ、ガヤガヤと楼を降りて行きました。

先ほどの老人は、下人たちと宴の片付けを始めました。そして宴で使用した酒器などをしまおうとしましたが、盃一つが足りないことに気が付きました。老人は必死に探している様子でしたが、なかなか見つからなく焦り顔になってきました。

「あの酔い潰れている客が知っているかもしれないのでは？」

と下人が老人にささやきましたが、老人は「そんなことを言うものではない」

と殷公に聞かれることを心配して急いで下人を

制しました。

暫くの間、老人と下人があちこち盃を探し続けているようでしたが、時間が経ち部屋は静かになりました。

物音が止み周囲がひっそりとして、ようやく殷公は起き上がりました。灯火もない暗闇の中には、女性たちの衣服の薫香や、酒の美味しそうな匂いがまだ部屋に漂っています。それらの残り香はさっきまでのことが夢ではなく真実だと証明しています。気が付くと東の方が明るくなってきました。

「無事に一晚すごした。しかし奇妙な一夜だった」

殷公は心の内でそう思いながら楼閣を後にして、昨夜の、庭の道を辿って玄関に向かいました。途中でふと袖の中を探ると、黄金の盃がまだ入っています。

屋敷の門まで来ると、仲間たちが既に待っています。夜中に殷公が恐ろしさに我慢できなくなって屋敷を抜け出してくるかもしれないと思って見張っていた様です。



満柏 画

「大丈夫だったのか」

「何でもなかったのか」

殷公の普段と変わらない様子を見てみんな口々に質問しました。

「いやあ、何もなかったどころじゃ あない。面白いことを見たぜ」

殷公は得意満面に一部始終を語りました。仲間たちが半信半疑でい

る様子を見て、殷公はさらに袖から黄金の盃をみんなに見せました。それを見て友人たちはやっと納得してくれました。貧乏書生に過ぎない殷公がそんな貴重な品物を所持している筈はないからです。

その後、殷公は進士に及第し肥丘（河北省肥郷県）

に赴任しました。

その肥丘で、殷公は新しく同僚となった官吏たちと多数知り合いました。その中に、地元の名門の一族である朱という人物がいました。

ある日、朱の招きに応じて、朱家の宴会に行きました。宴会中、朱は下人に、家の一番良い盃を持ってくるようにと命じましたが、なかなか持って来ません。

「なにしてるんだ。さっさと持って来るように伝えろ」

と、朱が近くにいた下人に言いました。そして戻ってきた下人が朱の耳元でこそこそと何かを言うと、朱の顔に怒りの表情が現れたようでした。

「取り合えずあるだけを持って来い」

と、朱が再び命じました。しばらくすると下人がいくつかの黄金の盃を持ってきました。朱はその盃に満々と酒を注いで殷公に勧めました。殷公がその盃をよくみると、様式も、画かれた花模様も狐の宴会で使われたものと寸分も違うところがないように見受けられます。

「素敵な盃だなあ。どこで手に入れたのでしょうか」

と訊ねてみました。すると主人は次のように話しました。

「この盃は、父上が都の官吏だった時、有名な匠人に作らせたもので家の家宝です。ですから我が家では大事な時だけに使用し、いつもは大切にしまって来ました。元々は8個揃いでしたけれど、この度、閣下において頂きましたので使って頂こうと思いました。ところが箱の中には7個しかなかったということです。家の使用人が盗んだのかもしれませんが。とはいえ十年間使わず封をしたままにしてありました。埃も積もっていて誰かが手を触れた風にも見えないと下人が言うのです。何とも訳が分かりません」

殷公は笑いました。

「黄金の盃に羽でも生えたのでしょうか。それにしても、代々の大切な家宝を失くされてはいけませんな。実は拙者もこれと良く似た盃の一つを持っています。進呈いたしましょう」

宴の後、殷公は官舎に戻り盃を取り出すと、早速朱に届けさせました。朱はそれを受け取って眺め吃驚しました。間違いなく自分の家のものなのです。朱は殷公の家にお礼を述べに行き、謝辞を伝えながら、一体どこで手にいれたものなのかを問いました。

そこで殷公は事の次第を朱に語りました。

「狐の仕業だ。自分が大切にしまっておいたからといって必ず何時も手元にある訳ではないようだ。時には、狐が借用しているかも知れない」

と朱は納得し、盃が再び揃ったことに感激しました。

果たして狐は千里も離れたところからものを取り寄せることができるのでしょうか。何と奇妙なことがあるものだと思公は思うのでした。

(終わり)

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

‘わんりい’は、いつでも新入会を歓迎しています。

年会費(4月～3月)：1500円 入会金なし

**郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わんりい’
入会時期によって割引あり。お問合せ：下記。**

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると、

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

私の調べた諺・慣用句
45
一暴十寒

三澤
統

皆さんはある時一念発起して大きなことを始めても、しばらくして残念ながら途中で挫折してしまった経験はありませんか？人間、何か事をなそうと始めたら、集中と継続する努力が必要ですね。途中で諦めたり、だらだらとやったのでは、当初の思いを成就することは難しいでしょう。そのことを表現した熟語に“一暴十寒”があります。

辞書ではそれぞれ次のように載っています。

▲ 小学館 デジタル大辞泉：

「一暴十寒 孟子 告子上の“一日之を暴めて十日之を寒さば、未だ能く生ずる者有らざるなり”から 努力しても怠ることが多くては、むだになる。継続して事を行わなければ効果はあがないということ」

▲ 小学館 中日辞典：

「一暴十寒・一曝十寒 yī pù shí hán 1日、日光に当て10日冷やす；(喩)努力が長続きしない」

孟子は戦国時代の著名な思

想家で高度な学問と豊富な知識を有し、わかり易い含蓄のある比喻で執政者に忠告をしておりました。

孟子は斉国王・昏庸が、事を運ぶことにきちんとした原則を堅持することが出来なく、ごますり大臣たちの中傷を軽々しく信じることが不満でしたので、ある例えを用いて王に率直に忠告をしました。

「王様は、もう少し思慮深くされた方が良くかと存じます。天下には生命力旺盛な植物もあると思います。しかし、それとて種をまいて芽が出ても、

一日だけ太陽の下で暖められて、そのあと凍るほど寒いところに十日も置かれたら無事に育つでしょうか。

私は王様と一緒にいる時間はとても短いのです。王様が私の話を理解されて、善政なされようと決心されても、私が王様のお側に居ないと、邪な大臣達が又王様を騙したり欺いたり、王様が又しっかりしたお考えを持たれずに、そのような者どもの言うことを聞いて信じてしまわれるようでしたら、私は心配でなりません」

続けて孟子はもう一つの分かり易い例え話をしました。

「将棋はちょっとみると易いそうですが、集中し

て学び研鑽を積まなければ勝つことは出来ないでしょう。ある時、奕秋という国中で最も強い将棋の達人が、二人の弟子に将棋を教えたことがあります。一人の弟子は一心不乱に将棋を学び研究し、細部まで奕秋の教えを聞きもらしませんでした。もう一人は奕秋が教えている間気もそぞろで、時には大きな白鳥が飛んでいるのを窓から見て、矢でその白鳥を射ることを夢想したりしていました。二人の弟子は同じ先生と一緒に将棋を教わった訳ですが、後



満柏 画

に二人の成績の差は大きく開いてしまったのです。その原因は二人の知力に差があったのではなく、将棋に集中する程度が違っていたのですよ！」

その後、世の人は、孟子の言った“一日暴之、十日寒之(一日これを温め、十日これを冷やす)”

を短縮して“一暴十寒”と言うようになり、学問を修めたり、物事を為すのに根気がなければ、途中の多くが無駄になってしまうことの喩えとしてこの言葉を用いました。

詩人^{いん せ りん}尹世霖の童詩の世界⑱

金子總子・訳

xiǎo fēi jī 小飞机

jié jié de xiǎo fēi jī
洁洁的小飞机，

quán bān yǒu míng qì
全班有名气。

xiàng pí jīn tán chū qu
橡皮筋，弹出去，

fēi le yī fēn yī miǎo yī
飞了一分一秒一。

shàng kè líng xiǎng de jí
上课铃，响得急，

xiǎo fēi jī fàng zhuō lǐ
小飞机，放桌里。

jié jié shuō
洁洁说：

wǒ xué xí nǐ xiū xi
「我学习，你休息。

jīn tiān xué xí hǎo
今天学习好，

míng tiān qù zào dà fēi jī
明天去造大飞机！」

小さい飛行機

キヨシくんの 小さい飛行機

クラス中の 評判だ

輪ゴムでネ 弾き出したんだヨ

一分一秒一 飛んだんだ

始業の鐘が せわしげに鳴った

小さい飛行機はネ 机の中に置かれたヨ

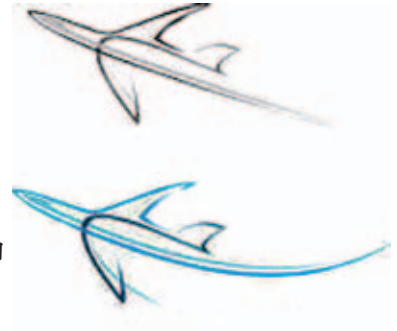
キヨシ君が いいました。

「僕は勉強だけどキミは休憩だよ

今日は しっかり勉強して

明日には 大きい飛行機を

造るんだ！」



shí liú huā 石榴花

yī kē shí liú shù
一棵石榴树，

yī tuán lǜ bō tāo
一团绿波涛。

yī duǒ shí liú huā
一朵石榴花

yī shù hóng huǒ miáo
一束红火苗，

duǒ duǒ shí liú huā
朵朵石榴花，

xiàng zhe lán tiān shāo
向着蓝天烧。



ざくろの花

ひと株の ざくろの樹は

ひとかたまりの 緑の大波

一輪の ざくろの花は

ひと束の燃えさかる炎

幾輪もの ざくろの花が

青空に向かって 燃えあがる



元寇と鷹島 (その3)

寺西 俊英

前号は、主として「文永の役」の話であった。今号は、「文永の役(1274年)」が終了後「弘安の役(1281年)」に突入までの経緯を俯瞰してみたい。

なお「文永」という年号であるが、これは第90代の亀山天皇の治世(在位 1259 ~ 1274年)であった。しかし1274年に同天皇は上皇となり〈治天の君〉となって実権を掌握した。天皇の座は皇子の世仁親王に譲った(後宇多天皇)。治天の君とは、政務の実

権を握った上皇または天皇を指す用語で、事実上の君主である。天皇交代の理由は定かではないが「文永の役」が影響しているのであろう。大所高所から自ら国難に当たろうとしたのではないかと想像する。



フビライ像、台北国立故宮博物院所

ところで、元軍が対馬に襲来した報せが鎌倉幕府に届いたのは1274年11月であった。日本側がなんとか防衛に成功し元軍が撤退した後である。2週間余りのズレが生じている。これは当時、大宰府と鎌倉間が一番早い飛脚でも12 ~ 13日を要したためである。対馬から大宰府への報告日数を考え合わせるとこれはやむなしとしか言えない。しかし、情報が瞬時に伝わる現在と違うにしても、どのように戦うかの戦略が十分とはとても言えないのではないか。

「文永の役」までに元から5度も6度も使者が来ており、先方の出方は十分想定できたはずである。10月号で豊臣秀吉は朝鮮征伐時「名護屋城」(佐賀県)を築城し、先頭に立って指揮を執ったことに触れたが、やはり時宗は大宰府にあって陣頭指揮しなければこれだけの国難に到底対処できない。まして対外政策において京都の御所と足並みが乱れている中での国難である。攻撃の在り方と防御の在り方とは違うかもしれないが、秀吉と時宗とは対照的のように私には思える。

ただ鎌倉幕府も手を拱いていたわけではない。再度の来襲に備えて博多湾沿岸に20kmにも及ぶ石を積み上げた「元寇防壁」を造り上げた。現在も一部地域に石塁跡が残っている。一番強固なところで高さ3メートル、幅2メートル以上の造りである。この防壁は日本側が守備する内陸方面からは騎乗しながら駆け上げられるように土盛りしてあった。逆に、元軍側に

元寇関連年表

西暦	できごと
1127	臨安(杭州)を都とし、南宋が始まる。(1126年、「靖康の変」で宋は金の侵攻により滅亡)
1206	モンゴル帝国の成立
1234	金、モンゴル帝国と南宋の連合軍に敗れ滅亡する
1246	南宋の高僧・蘭溪道隆 ^{注1)} 来日する
1259	高麗、モンゴル帝国の属国となる
1260	フビライハン(1215 ~ 1294年)、モンゴル帝国第五代皇帝として即位する
1268	モンゴル帝国、国書を日本に送るが日本は無視する
1271	モンゴル帝国、国号を元とする。(以下、モンゴル帝国=元) 元、趙良弼(元の政治家/女真族)とその部下100名を使者 ^{注2)} として日本に送る。4か月滞在し、高麗に帰国。
1274	1272年に再来日していた趙良弼が1年の滞在の後に帰国。日本の状況を元に報告する 元、高麗に大・中・小それぞれ300艘の船を作るよう命ずる。その期間は10か月という
1274	文永の役
1275	元、杜世忠を正史とし、通訳も含め5人の使節団を日本へ送る 元の使者・杜世忠等は鎌倉に送られ斬首される(その報告は4年後になって元に届く。表、1279年参照)
1275	元、高麗に船の建造を命じる
1279	南宋、元の侵攻により滅亡。元、大都(北京)に都を置く 6月。元、周福を正使とする一行を使者として送るが、博多にて直ちに斬首される 8月。南宋の高僧無学祖元 ^{注3)} が蘭溪道隆の遷化後、建長寺の住持として時宗の招きで来日 高麗の船員が杜世忠等の斬首を高麗に報告
1280	元、日本攻略を目的に日本行省を置く
1281	弘安の役

注：1) 鎌倉建長寺開基 2) 元は趙良弼を国使として送る前に、高麗に託して何度か日本に使者を送っていた。しかし高麗は日本に届けなかったために返事はなかった。その為、元の政治家である趙良弼に託し、直接日本に届けた。 3) 1282年、時宗は巨額を費やし、元寇での戦没者追悼のために円覚寺を創建し、祖元は開山となる(ウィキペディア)

※本表は、本文中記載の西暦にウィキペディアなどの検索結果を加えてわんりい編集部の田井光枝氏が作成。



北条時宗像、江戸時代『前賢故
実』より。画：菊池容斎。



「蒙古襲来絵詞」筆者不明の全2巻の絵巻物。鎌倉時代後期の作。「三の丸尚蔵館」蔵

は乱杭(らんぐい:乱雑に打ち込まれた杭)や逆茂木(さかもぎ: 棘のある木の枝を並べて垣にしたもの)などの障害物を設置した。また万が一太宰府が戦場になった場合を想定し、太宰府の西方に築造されていた水城(みずき: 太宰府市、大野城市、春日市に造られた古代日本の城)を改修したりした。しかし少し内陸部にある太宰府周辺が戦場になることはなかった。

ここで北条時宗(1251～1284年)について見ておきたい。時宗は、北条氏の嫡流・得宗家に生まれ、モンゴル帝国の二度に亘る元寇を退け、後世には日本の国難を救った英雄との評価をされた。18歳で第8代執権となった。時宗の父は5代執権の北条時頼である。時頼といえば、能の「鉢の木」で有名である。諸説あるようであるが名君と詠われ民衆に対し善政を行った。彼は、1246年に弟子たちと共に来日した「蘭溪道隆(1213～1278年)」と親交があった。道隆は南宋(注)の名僧であり、鎌倉の建長寺の開基である。

蘭溪道隆の後を継いだ名僧が、「無学祖元(1226～1286年)」である。この祖元に北条時宗は深く帰依した。祖元は鎌倉の円覚寺の開基であり、やはり「南宋」から来日している。この「南宋」を元が文永の役から15年後の1289年に滅ぼし、大都(北京)を都としたのである。このような流れの中で道隆も祖元も元の横暴を指弾し幕府に支援を要請したと思われる。当然、時宗は南宋を支持した。それは、後述するが元の使者に対する時宗の厳しい対応からも伺える。

まず文永の役の翌年、1275年にフビライは再び日本侵攻の準備を進めるとともに元に服属させるた

め、第7回目となる使節を派遣した。モンゴル人の杜世忠を正史とし、通訳も含め5人の使節団であった。使節団は長門国(山口県)に上陸するが、時宗は鎌倉に連行させ、同年9月滝の口刑場(神奈川県・藤沢市)において全員を斬首とした。日本の国情を偵察したスパイとみなされたようだ。

ちなみに杜世忠らの供養塔(元使塚)が常立寺にある。常立寺は、藤沢市片瀬にある日蓮宗のお寺で、枝垂れ梅の名所として知られ開花の時期には多くの観光客が訪れるという。2005年には朝青龍や白鵬などのモンゴル出身の力士が参拝しており、その後も同国出身の力士は参拝しているようである。また2007年にはモンゴルの大統領夫妻も参拝している。やはりモンゴルにとっては特別の場所なのかもしれないが、一方的に侵略され多数の犠牲者を出した日本側から見れば複雑な感情は否めない。

第8回目の使節団が斬首されたことをまだフビライは知らなかったが、1275年10月再度の日本侵攻の計画を立て高麗に命じて戦艦の建造を始めている。まことに執念深い性格と言わざるを得ない。このころは南宋の攻略を行っており、南宋に兵力を集中させた。そしてついに1279年に首都・臨安(杭州)を無血開城させ、南宋はあっけなく滅亡した。これで日本侵攻に専念する条件が整ったのである。さっそくフビライは日本侵略の計画を実行に移そうとした。その前にまず日本に再度使節を派遣して服従する可否を見極めてから出兵することとし、第8回目の使節団を派遣した。ところがこの使節団も博多において全員斬首されたのである。これらを見ると、時宗

の南宋への思い入れと元に対する戦いの覚悟ができていたと思われる。

さて1279年の8月に命からがら高麗に帰還した水夫により、8回目の使節団の正史であった杜世忠らの処刑の情報が報じられたのである。1275年の斬首から4年も経過している。いろいろな事象が錯綜しているが、当時は海外に出向いて他国を征服しようとするればこのようなものであったかもしれない。

高麗はすぐさまフビライに使者を派遣した。元軍の諸将は直ちに兵を率いて日本への出兵を願い出たようであるが、評定の結果当面様子を見ることになった。1280年にはフビライは日本侵攻軍の司令部である「日本行省」を設置。翌年2月には主要な司令官を

集めて檣を飛ばしたのである。この間戦略を練り上げたのであろう。「弘安の役」は、東路軍(朝鮮半島の合浦から)と江南軍(浙江省の寧波、定海から)の2拠点から出港し、壱岐島で合流して大宰府を攻める計画を立てた。いよいよ「弘安の役」の火ぶたが切って落とされるが、以下は次号に譲ることにする。(続く)

(図版はウィキペディアより転載)

■注

宋(960～1279年)について：五代十国が乱立する国内を960年に統一し開封を都としたが、1126年に北から来た「金」に攻め込まれ(靖康の変)滅亡する。ここまでを「北宋」と呼ぶ。1127年、宋の最後の皇帝・欽宗の弟趙構(高宗)が南に逃れて杭州(当時：臨安)を都とした。以降の宋を「南宋」と呼んでいる。

中国の笑い話 26(「365夜笑話」より)

翻訳：有為楠君代

■第78話：不公平

先生が、二人の生徒に罰として居残りを命じ、自分の名前を100回書き終わるまで帰ってはいけなかったと言った。一人の生徒は30分もしないうちに書き終えて、家に帰ってしまったが、もう一人の生徒は1時間経っても書き終えない。

先生は不思議に思って訊いた。

「君はどうしてそんなに時間がかかるの？」

彼は、鼻をすすりながら言った。

「先生、これは本当に不公平ですよ。あの子の名前はハンス・フランク(漢ス・弗蘭克)です。でも、僕の名前はムハマド・アリ・ザルディン・ビン・ハジ・イブラヒム・アブドール・ラジド(穆罕默德・阿里・扎卢丁・炳・哈吉・易卜拉西姆・阿卜杜尔・拉吉德)って言うんです」

■第79話：同じ名前

李林は同じ学校に通っている姉に会いに行った。姉の校舎のガードマンが彼に訊ねた。

「誰に会いたいの？」

李林が言った。

「僕は姉に会いたいんです」

「お姉さんの姓はなんと言うの？」

「僕の姉は僕と同じ姓です」

「じゃ、君の姓はなんというの？」

李林はこれを聞くと頭にきた。

「決まってるじゃないか！僕は当然、姉とは同じ姓じゃないか！」

■第80話：お友達

5、6歳の女の子が、橋の上で、欄干から身を乗り出して、川を覗きながら泣いていた。

「お友達が落ちてしまった！」

歩いていた人が立ち止まり、巡査もやって来た。

見物人が益々多くなり、ある人は船を出して助けようとし、ある人は水に飛び込んで助けようとした。しかし、落ちた子供が見当たらない。

人々は急いで落ちた子供を探したが見つからない。水に潜った人が、水の底から西洋人形を拾い上げた。

それを見た女の子が、嬉しそうに叫んだ。

「私のお友達が出てきた！」

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられてます。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単なご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

解州 関帝廟

鄧仁有

関帝廟は三国時代・蜀漢の猛将関羽の故郷、山西省運城市解州に位置しています。隋の開皇九年(589年)に創建され、宋の時代に拡大され、明と清の時代に再建されました。宮殿式^{注)}と言われる建築群は雄大で、中国にある関帝廟の祖と言われています。

関帝廟の配置は南北二つに分けられています。南部は結義園で、北部は主廟です。敷地面積は14万m²で、国内に現存する関帝廟としては最も大きいものです。

■主廟

中軸線の北端が主廟で、多層的に展開する巨大な建築群です。主に瑠璃の龍壁、端門、午門、御書楼、崇寧殿、刀楼、印楼、春秋楼と数多くの牌楼で構成されています。現存している建築はほとんどが明・清時代のものです。

ここに祀っているのは関羽です。山西省運城市解州鎮常平村の出身でした。劉備、張飛と義兄弟の約束を結び、義勇の人として知られ、劉備を助けて功がありました。219年に魏、呉両軍に攻められ、呉の馬忠に殺されました。関羽はその悲劇的な最後と、主君劉備に対する忠誠心によって、歴代の帝王と庶民に深く哀悼され、各地に関帝廟が建てられるようになりました。

■端門

主廟の入り口のレンガで建てられた建築は「端門」と呼ばれています。三つの門があるから「三門」とも呼ばれています。真ん中の門が高く、左右の門がやや低いです。真ん中の門に「扶漢人物」と書いてあります。関羽が漢を助ける英雄という意味です。右の門には「精忠貫日」、左の門には「大義参天」と書いてあります。両方とも関羽の「忠義」を讃えています。

端門の前には3本の鉄棒が立っています。関羽に尊敬を払う為に、文官にしても武官にしてもここからは歩いて中に入るわけです。

■瑠璃影壁

この瑠璃龍壁は民間住宅の目隠しの壁に当たり



解州関帝廟遠景



端門 (山西省観光局ホームページより)

ます。瑠璃は明の時代に作られました。600年経ってもまだ色鮮やかです。全体の構図から言うと、天、地、海の3界に分けられています。その間を4匹の龍が漫遊していて、周りには鳳凰、麒麟、玉兔がいて、とても豪華です。中国の古代の龍壁は普通龍の数が1、3、5、9匹ですが、ここの龍は4匹です。何故かというと、関羽は実際には皇帝になった事はありませんが、死後に帝に封じられ関帝と呼ばれるようになったからです。

■雉門

端門を抜けると「雉門」に入ります。俗に「大門」と呼ばれています。門楼には「関帝廟」の額が掛かっています。昔、この門は一般の人は通る事は出来なく、皇帝しか通れませんでした。「大門」の両側には「文経門」と「武緯門」があります。この二つの脇門は文武官、王侯貴族などの専用でした。



雉門

「文経門」の東側には「武将祠」と「崇聖祠」があります。「武将祠」には関羽傘下の武将である楊儀、王甫、張累三人の色彩塑像が安置されています。「崇聖祠」には関羽の曾祖父、祖父、父の位牌が安置されています。「武緯門」の東には「追風伯祠」と「胡公祠」があります。「追風伯祠」は赤兔馬のために建てられたのです。赤兔馬は全身が赤く、一日千里を走るといふ名馬です。呂布が董卓から贈られ、その死後、関羽の愛馬となりました。関羽が亡くなってから、孫権の武将・馬忠が手に入れましたが、餌を食べず死亡しました。明代の万暦帝がその忠誠心を感じ、追風伯を封じて祠を建てられたのです。「胡公祠」は関羽の岳父のために建てられたものです。また「雉門」はお祭りや縁日の時には階段の両側に板を置いて舞台になり、「三国志演義」の演目などが上演されます。

■石坊

石坊は370年前の明の時代に建てられました。石坊には三国の物語が浮き彫りで彫刻されていま

す。例えば「呂布討伐」、「三顧の礼」、「顔良を斬る」、「文醜を誅す」などの彫刻がとても巧みで、真に迫っています。

■午門

「午門」は皇帝宮殿の正門です。普通の寺廟には設ける事が許されませんが、明の万暦年間に関羽が帝に封じられた後に建てられ、1920年に再建されました。「午門」に上がると、正面の壁画に周倉と廖化が描かれています。周倉は山西省平陸県の人で、専ら関羽のために青龍偃月刀を持ち、関羽の片腕となって働いた人です。廖化は蜀の大將、関羽の最も親しい部下、後に劉備の息子の劉禪の下で中郷侯となりました。二人ともこの関帝廟の守護神になっています。東と西の壁には青龍と白虎が描かれている壁画があり、元々は道教の道観に属していました。

■御書楼

この高い建物は「御書楼」と呼ばれています。元の名前は二階の天井が八卦によってデザインされたことから「八卦楼」と呼ばれました。石碑の記載によると、清の康熙帝は1703年に西へ巡幸をした時にこの関帝廟に寄り、「義炳乾坤」との親筆を残しました。今、その扁額は「崇寧殿」に掛かっています。後に清の乾隆帝が祖父の康熙帝の題字を記念する為に、「八卦楼」を「御書楼」に改名しました。

■崇寧殿

崇寧殿は関羽を祀っている本殿です。宋の時代の徽宗が関羽を「崇寧真君」に封じたことからその名をつけたのです。崇寧殿の前には祭壇があり、昔は祭祀を行う所でした。本殿の軒下に清代の咸豊帝直



午門



御書楼



崇寧殿



崇寧殿のご本尊

外側の回廊からは周りの景色を見下ろす事が出来ます。春秋楼の両側には「刀楼」と「印楼」が建てられています。古代、「文印武刀」は権力の象徴でした。関羽は「青龍偃月刀」を持って赫赫たる戦功を立て、その複製品が「刀

筆の「万世人極」との扁額が掛かっています。殿内には帝王装を纏っている関羽の塑像が祀られています。手には笏を持っています。

■ 后宮

関帝廟は宮殿式の建物で、「外朝」と「内廷」に分かれています。ここからは「内廷」の「后宮」に入ります。「后宮」の正門に入ると四季折々の花や緑がいっぱいあって別世界に感じられます。ここにはかつて娘娘殿(後の住まい)と関平、関興の太子殿がありましたが、1947年に戦火で破壊されました。

■ 春秋楼

「后宮」の北側にある2階建ての高い建物は「春秋楼」と呼ばれています。関羽が「春秋」を愛読したのでその名が付けました。「春秋楼」は高さ30m、関帝廟の中で一番高い建物です。明の時代に創建されましたが、火事にあい、清代に修復されました。2階には「春秋」を読んでいる関羽の等身大の塑像が安置されています。関羽は武を誇る一方で、学問を好み、「春秋左氏伝」をほぼ暗誦出来るなど、文武両道の面をもっていました。厨子の周りの板壁に「春秋」全文が刻んであります。力強い楷書です。



春秋楼

楼」に展示されています。「印楼」には関羽が曹操から「漢寿亭侯」に封じられた時の印の複製が展示されています。

■ 官界における関羽

政治面から見ると、乱世の中で特定の個人に対して忠誠を尽くした関羽は、為政者から見ると賞賛すべき人物でした。そのため、北宋の徽宗皇帝が爵諡の「忠恵公」後に「武安王」として封じ、「崇寧真君」としました。明初には神号「協天護国忠義関聖帝君」に封じ、清代に入ると順治帝が「忠義神武関聖大帝」として、後に宣統帝が「忠義神武霊祐仁勇威顯開聖大帝」と次々と追贈していました。多くは王朝初期と末期に追贈されていました。清代には県に必ず関帝を祀る武廟を建立させました。現在では関帝廟が多く各地に残っています。

■ 民間における関羽

関羽は後世の人間が神格化し、関帝(関聖帝君、関帝聖君)とし、神様としました。信義に厚い事などから、現在では商売の神様として世界中の中華街で祀られています。算盤を発明したという伝説まであります。日本では横浜中華街と神戸南京町の関帝廟が有名です。ここ、運城の関帝廟では毎年旧暦4月8日に祭祀が行われ、沢山の人が訪れています。

■ 注

宮殿式：関羽は死後皇帝に封じられたので、関羽を祀る場である関帝廟は皇帝の住まいである宮殿にのっとった建築様式で建てられている。

※掲載写真は、「端門」を除き中国「百度百科」の「解州関帝廟」から転載

モンゴル私観

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

大相撲(九州場所)を見ながらの雑感から始めたいと思います。相撲といえば日本の国技といわれてきました。もう大分前になりますが、ハワイから来た高見山や曙、小錦、武蔵丸などのアメリカ人が横綱や大関になり「国技」ではなくなった時期がありました。

しばらくして千代の富士、若・貴兄弟の活躍で「国技」が復活しました。それが現在では横綱を白鵬、日馬富士、鶴竜のモンゴル人が独占しています。モンゴル人力士は幕内で10人いるとのこと。

まさに「蒙古襲来」を思い出させます。外国人力士にはそのほかにもロシア、エジプト、ジョージア、ブルガリア、エストニアなどの欧州人も加わり、国際競技化の時代です。

蒙古といえば「元寇」を思い出します。元・高麗連合軍が2度にわたって日本に侵入した事件、鎌倉時代中期の「文永の役(1274)」と「弘安の役(1281)」です。ヨーロッパにまで及んだ元の征服欲が東に及び、日本に「朝貢」するよう迫り、日本がそれを拒否したことが「元寇」の原因といわれます。中学か高校の歴史で学んで蒙古(モンゴル)はけしからん…と憤った思い出があります。

この憤りを消したのは甥が生まれたときでした。甥のお尻にある「蒙古斑^{はん}」を見たときでした。かわいいお尻にうっすらと浮かんだ青アザを見て、「日本人のルーツは蒙古にある」と教えられました。それ以来、私の意中では蒙古が俄然親しいものになりました。厳密に言えば「元・蒙古・モンゴル」は一致しないのかもしれませんが…以下はあちこちからの寄せ集め文をもとに「私観」を書いてみます。

🏰 「史記」を誕生させた「匈奴とは」

紀元前318年、モンゴル高原に出現した騎馬民族がやがて帝国をつくり南下して漢民族の地を侵す。この帝国を漢は「匈奴」と名づけた。中国を再統一した漢帝国はできたばかり。匈奴の進出に対して、漢の高祖(劉邦)はみずから大軍を率いて大同で戦ったが、匈奴の大群に包囲された。命がけで脱出した高祖はその後、娘を単于(王)に贈って単于の妻とし、さらに年々莫大な貢物を送り、単于をもって兄として仕えるという屈辱的な関係をもった。

史記の作者は司馬遷である。司馬遷は匈奴との戦いに敗れた漢の將軍・李陵をただ一人弁護したことにより、皇帝の怒りを買って「宮刑」に処せられた。この上ない恥辱の「宮刑」に耐えて生き残ったのは史記を完成させるためであった。司馬遷は自序のなかで次のように述懐している。

「かつて孔子は旅の危難を乗り越えて『春秋』を編み、屈原は故国を追放され『離騷』を著し、左丘明は失明して『国語』を残した。このような人はみな、心に鬱積した感情の捌け口を見出せぬとき、往時を語って未来に期待を託したのである」

と。これは同時に司馬遷の想いでもあった。

🏰 旧書に見る「匈奴」

匈奴とはどういう人種であったのか。モンゴル人であることは事実であるが、体型についてはスキタイのような白人に似、あるいは古代トルコ人だったのではないかと諸説ある。

史記の「匈奴列伝」には、「家畜にしたがって移動し、鳥や獣を射猟して生業とする。君主以下、みな畜肉を食料とし、その皮革を衣服とし、皮衣を着る」とある。また漢書の「匈奴伝」には、「年々匈奴に絮(まわた)、絹、酒食を漢から呈上した」とあり、唐のころからは絹布のモンゴル服を好んで着るようになったという。後漢書の「烏桓伝」には、「かれら(匈奴)は水草を追って放牧し、定住の地を持た

ない。穹廬（きゅうろ：フェルト製の天幕。中国人の言う包）を持って家とし、肉を食い、乳酪を飲み」とある。「史記」にも「漢書」にも「匈奴には姓と字がない」と書いてあるが、モンゴル人には今も姓はないそうだ。

中国の影響を受けやすい近隣国で、今も伝統を守る民族は頼もしい。それにしても「匈奴」とは？ 匈奴…「騒がしく叫ぶ」という意味があり、きっと馬に乗って大声で叫ぶ奴（どれい）ということが理由だとも言われるらしいが、漢民族が自己中心的、上から目線で異民族を呼んだ証拠である。北狄、南蛮、東夷、西戎やそこに住む民族、たとえば鮮卑、羯、氐、羌などなど。

英雄「チンギス・カン」

匈奴は騎馬民族である。人間が馬に乗るという技術は、紀元前6世紀ごろ黒海沿岸の草原で活躍していたスキタイで生まれたらしい。その騎馬技術が、中央アジアの草原で牧畜をしている諸民族に影響を与え、やがて東進してモンゴル高原に溶け込んだ。世界を席卷したモンゴルの騎馬軍団はそうして生まれた。かつてユーラシア大陸を縦横無尽に暴れまわったチンギス・カンの一族は、今もモンゴル人が誇る英雄だ。

現在のモンゴルについて

国土は日本の4～5倍、人口は約280万人。世界でも2番目に社会主義国（モンゴル人民共和国・1924）になったが、ソ連崩壊後の1992年に民主化に移行した。国の東・南・西は中国、北はロシアというように周囲を大国と接する草原の国である。首都はウランバートル（赤い英雄市）。憲法の条文に「極端な愛国主義と盲目的な民族主義を排す」とある。極端な愛国主義や盲目的民族主義は人類のためにならないし、むしろ有害である。こうした条

文を憲法で堂々とうたう国は、世界でも類がないという。チンギス・カンの置き土産かもしれない。

思い返せば、昭和期の日本は帝国主義的発想で、「満蒙」を唱えて大モンゴル国家の建設を提唱した。幸いにもその夢は費え去ったが、このモンゴル憲法の条文は、世界の国々が一考してもいいのではないか。

秦の始皇帝とチンギス・カン

民族にとって、その民族の英雄は民族結束の象徴になる。毛沢東は、秦の始皇帝を称揚している。分裂していた漢民族世界を統一したという歴史を持っている。なかでも「文字の統一」は最大の成果であろう。話し言葉が通じない時代にあっても意思が通じ合えるということは民族統一の最大のパワーである。

モンゴルが社会主義国であった折、チンギス・カンの名を出すことはタブーであった。彼の名を開放するとモンゴル人の精神が高揚して民族主義が暴発する危険を感じていたソ連は、チンギス・カンの名を押さえ込んだという。

砂漠と牧草地で生活する遊牧民にとって、国家の基本条件としての領土に対する観念がない。モンゴルという遊牧民の国家といえば「同胞」だけであった。かつて元が明と争い敗北（1368）した際、元は領土を捨ててサッサと北へ退散したことがいい例だ。領土的野心のある国は、そのような野心は毛頭ないサッパリした遊牧民を見習ってはどうか。

私は前号で「タミル人と日本人」で、日本人のルーツを書きました。今回は「モンゴル私観」でも引き続き「日本人のルーツ」を書いたつもりです。日本人の幼児にある「蒙古斑^{はん}」以外に、モンゴル語の言葉の構造も日本語に類似しているそうです。それらを考えるとあっそう親しみがもてるようですが、皆さんはいかがお考えでしょうか。

スリランカの地図を見ると、南東に位置するカタラガマはごく最近になって旅ガイドに登場するようになった。内戦が終わってやっと観光国として注目され始めたのであろう。かつて、私の中のスリランカ仏教域は文化三角地帯で、アヌラタブラ、ポロンナルワやキャンティでしかなかった。ところがある機会に、スリランカをより深く理解しなければならぬことに遭遇した。

スリランカ詣でが頻繁となり、毎回同一地域ばかりでなく多方面に足を延ばさねばと訪問地を広げた。今そのことが善い縁となったことで感謝している。

🔥火渡り儀礼

以来、古代都市名跡や壮麗な寺院から、さらに遠方にあるカタラガマへの道に思いを馳せた。私の「カタラガマ・イメージ」は、他のどこの寺域よりも色彩鮮やかで、タミールとヒンドゥ教、風変わりなエサラ祭であった。特別に心にかかるのは水切り祭りと火渡り儀礼がカタラガマでは脈々と継承されていることであった。火渡りは19世紀初頭に南インドの苦行僧らによって時々行われていたが、世紀後半には毎年間断なく行われるようになったといわれている。日本の寺院風景にも、護摩修法があり類似するところがある。例えば真言密教、山伏行者の修業に

は勿論の事、東大寺における修二会お水取り、お松明にしても、ルーツを探し辿って行けば無関係とはいえないのである。カタラガマのそれは、自からの力を新たなものにするという厳

粛な行だと受け止められている。私流の理解では、炎のように燃える煩惱を清浄化・消滅させて昇華させ、あらゆる罪や過ちを懺悔し、万民豊楽を祈るということである。日本とスリランカの見解はあたらずとも遠からずの形であると納得している。

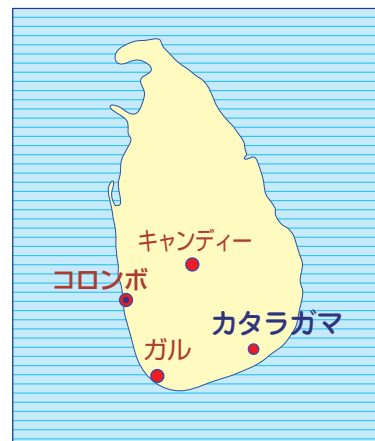
🔥北伝仏教・南伝仏教

インドに発生した「仏教」は、中央アジア、シルクロード、中国大陆から朝鮮半島を経由して日本列島に到ったのは北伝仏教である。

一般に「仏教の東漸」と称されるが、南インド、スリランカ、東南アジアの仏教域を南伝仏教という。前者の北伝仏教を後者の南回りで入ってきたカタラガマと比較したり照合するのは興味深い。南伝仏教と北伝仏教の接点に少しだけでも触れ、足をつけてみたいとの思いが続いていた。私が注視することは、ヒンドゥ神を祀るカタラガマ神殿と仏教聖地であるキリ・ヴィハーラが同じ境内にあるという、配置の妙を実際にこの目で見ることであった。

🔥スカンダ神信仰

2015年2月28日、ガンパハ市にある平和寺の住職がガイドを買って下さった。運転をお任せのスリランカ人、日本スリランカ友の会Y会員と私を乗せた車は、カタラガマを目指した。車中、住職が「カタラガマ物語」を話してくださり拝聴した。カタラガマ神の前身は南インドのスカンダである。スカンダとは日本名を韋駄天といい、足の速い人という場



ヒンドゥ神を祀るカタラガマ神殿に向かう門

(Google Panoramioから、Mauro Ornella氏撮影2011年)

合がある。禅寺の庫裏で見かけるので、食べ物に不自由なく暮らせる守り仏である。スリランカに於いては政治家たちが選挙に勝つよう、また、ビジネス効果がありますようにというスカンダ神だのみがあるらしい。19世紀にはシンハラ人に拒絶されたスカンダ信仰が、20世紀にどうして甦って活躍中なのであろうか。

俗域・結界・聖域

車を降りると辺りは直射日光で眩しく、一步一步の足運びも重く感じた。民家のようなお泊り宿らしいような家が建っている。

歩いていくと捧げ物の細工品や土産物、食べ物を売る小さな店が目に入ってくる。お皿の上に乗せる供物や花束を売る露店があって、日本でいえばさしづめ浅草観音様の賑わいである。蓮の花がもったいないほど置かれていたり、ポリバケツの中で華やかさを誇っている。「ここは南伝仏様の国」を痛感した。マニック河に掛る橋をわたる時「お参りする人はここで、手足を洗い清め、沐浴をして神殿に入ります」と、サマ・マハビハラヤ住職が教えて下さった。「ここが俗域と聖域の結界となります」とも加えられた。土足厳禁の神殿入口まで200mぐらいなのに熱射で長い道程に感じてしまう。世界各地から訪れる参拝者が多いとガイドブックに書かれていたがそれほどでもないと感じたのは、大祭のような仏事イベントの日でないからであろう。

参道から神殿へ

参道から見ると公園広場らしいところに、子どもたち、学生たちが同じコスチュームで集まっていた。その近くから笛や太鼓、弦楽器の音色が流れてくる。軽快なダンスをしているグループにも出会う。

神様たちへの讃歌と信仰形態であろうか。道路の中をゆったりと歩いているのはヒンドゥ教で大切に扱われている野牛らしい。何匹もの犬が行ったり来たりしていたのは野良犬だと住職が言われた。矯正されて「不殺生」の教えが守られているのだそうだ。

黄色いアーチ型はどこでも見られる神殿の入り口である。裸足で進むと中央右手に本殿、お隣はガ



仏教聖地・キリ・ヴィハーラ

(Google Panoramioから)

ネーシャ神などを祀っているヒンドゥの神殿かと思う間もなく、後からお参りの人・人に押され、日本仏教界でも知られているヴィシュヌ神は必ず拝まねば…と、うろうろしている内に外に出されてしまった。建物は大きくないが、もっとゆったりした気持ちでまた訪ねてみよう。

キリ・ヴィハーラで思う

カタラガマ神を日本式巡拝スタイルで抜け出ると、500m位の道を一直線に歩く。横に花屋さんがあったのが分かっているのだが、目の大きなお椀型の仏塔に圧倒されてしまった。キリ・ヴィハーラである。正面の階段を上って行くと雰囲気が一変した。外壁に沿って仏像が安置され、座っている人、花束や供え物を捧げる人、念じる人、祈る人がいる。しかし、静かである。あの結界となる小川を越えて、境内に入った中心部に、カタラガマ神殿があった。

その騒音と喧噪、賑々しく派手な色彩、人間臭い世界からキリ・ヴィハーラへの道。静寂と平穩の仏域の建物の創建は、紀元前7世紀だといわれている。その白い塔に至るには、ヒンドゥの神々を拝せずしては辿りつけない不可思議な配置設計であり、両者の共存共栄が見られる。カタラガマはスリランカ仏教史の縮図そのものであるといえる。スリランカ中北の仏教遺跡とは対照的なカタラガマは、独特な仏教聖地として存在感を誇っている。グローバル仏教文化の源流地点のような感じがした。

「東京国際映画祭」でフィリピン映画を見る

為我井 輝忠

10月から11月にかけて1か月半ほどフィリピンから日本に一時帰国した。この間に東京・六本木ヒルズで開催(10/22～10/31)された「東京国際映画祭」に出かけてみた。今年で28回目の開催になり、当初はあまり外国ではその存在を知らなかったが、最近ではカンヌ映画祭やベルリン映画祭、ベネチア映画祭などと肩を並べるほど大きな映画祭となり、参加国がかなりの数になった。

今年は「#02 熱風フィリピン(#02 The Heat of Philippine Cinema)」という特集が組まれ、フィリピンの映画が10本上映された。これまで日本でフィ

リピン映画はあまり上映されることもなく、ほとんど見る機会もなかったのが、大いに興味を覚え、時間を見つけて10本中何とか4本の映画を見ることが出来た。

今回見た作品は以下の通りである(後の括弧内は制作年と監督名を示す)。

1.「サービス (Servis)」(2008年、Brillante Ma Mendoza/ ブリランテ・メンドーサ)

大都会の片隅でポルノ映画館を経営する一家を中心に、館内を「ハッテン場」として利用するゲイたちや暗がり盗みを働く泥棒など、都市の暗闇で生きる人々を描く。カンヌ映画祭2008年コンペに出品した。

2.「畏(わな)～被災地に生きる(Taklub)」(2015年、Brillante Ma Mendoza/ ブリランテ・メンドーサ)

2013年11月、巨大台風ヨランダがフィリピンを直撃し、大災害をもたらした。被災地に生きる人々に寄り添い、人間の尊厳を問う作品。2015年カンヌ映画祭「ある視点」部門スペシャル・メンション。

3.「インビジブル (Invisible)」(2015年、Lawrence Fajardo/ ローレンス・ファハルド)

真冬の福岡と旭川でロケを敢行し、日本に滞在している4人のフィリピン男女(日本人と結婚したリンド、不法滞在労働者のベンジー、ホストのマヌエル、建設現場作業員ロデル)の姿を描く。日本人社会が全く知らない、彼らの日本での生活を暴いたとも



「東京国際映画祭」の参加作品が一堂に展示されているが、これはそのほんの一部



映画祭の公式ポスター



「インビジブル」の公式ポスター



「バロットの大地」の監督と出演俳優のロッコ・ナシノ

言える作品である。シナグマニラ国際映画祭でグランプリを獲得する。

4.「バロットの大地 (Balut Country)」(2015年、Paul Sta. Ana/ ポール・サンタ・アナ)

亡き父の遺言で広大なアヒル農場を相続することになった息子は、売却するつもりで農場を訪れた。これまで都会でミュージシャンとして気ままな生活を送ってきた彼が、田舎の広大な大地に心が揺さぶられ、ついに父親の農場を継ぐ決心する。この映画では都会人と田舎の人との対比を通して、都会と田舎のどちらに価値を見出すかというようなことを表現したかったのだろうか。タイトルの「バロット」というのは、アヒルの孵化寸前の卵を茹でたもので、フィリピン人の好物ともいえる食べ物である。

どの映画も現代フィリピンの現状を伝える作品ばかりで、大いに興味を覚えた。

この4本以外にも、ブリランテ・メンドーサ監督の作品がさらに2本、インディーズの先駆者ギドラット・タヒミック、ポール・ソリアーノとイシュマエル・ベルナル等これまで知らなかった新進気鋭



「毘(わな)～被災地に生きる」の監督と主演俳優のフリオ・ディアス(中央)

のフィリピン映画人が続々と登場し、大いに興味を覚えた。

どういう訳かこれまでこうした作品をフィリピンで見ることは全くなかった。一般映画館で上映されることは恐らくないのではないだろうか。「インビジュブル」のような社会派映画というような作品はシナグマニラ国際映画祭のような場でのみ発表されるのかも知れない。

【中国の茶文化はすごい!】

東京中国文化センターで24日から27日まで、2015中国シルクロード観光年キャンペーンシリーズ「お茶を極める中国の旅特別展」が駐日中国国家観光局の肝いりで開催され、開幕式に参加した。

会場には中国各地のお茶を味わえるブースが幾つも用意されていて、開幕式が始まる前に勧められるままに5～6種類のお茶を味わった。

これまで中国の皆さんから中国土産として折々にお茶を頂くので、ある程度の中国茶の知識はあると自分では思っていた。しかし、産地と製法によってかくもお茶の味が異なる事やお茶の淹れ方も様々なことを知って衝撃を受けた。丁寧に淹れられたそれぞれの茶はどれも奥行きがあり、味わいは異なるがとても美味しかった。茶道具もお茶の種類、お茶の産地によって1000年を越える歳月を掛け工夫されている。

生産量が少なく幻のお茶と呼ばれる白茶を初めて味わった。新芽だけを摘み、ほとんど熱を加えず茶



葉の酵素をゆっくり発酵させる。味わいも抜群だったが、発酵途中での揉みこむ工程もないため、白茶は芽が出たばかりの茶葉独特の真っ白な産毛をびっしり纏って溜息が出るほど美しかった。

浅薄な知識で中国茶を知っているつもりとは中国茶に対してなんという失礼だったことか。心の底からゴメンナサイといいたい。遅ればせだが、中国茶について改めて学びたいと思ったことだった。(田井光枝)

ウルルンド ソンニンボン クムジョンサン
韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(2)
(2015年8月29～9月3日)

関根 茂子

私が山頂の山名石碑をスケッチをしていると、さっきの夫婦連れが現れて覗きこむ。昨日描いた道洞の遊歩道のページを見せてあげる。ついでに、5月の太白山でのスケッチも見せる。言葉は通じなくても絵なら分かってもらえるのだ。

下山路は北面の羅里盆地^{ナリ}へ下ってバスで戻ることも考えられるが、島を一周する車道はまだ完成していない。バス時刻も不明だ。西回りの海岸道路をタクシーで走ると時間もお金もかかるので諦める。

元の道に戻る途中14:09から道洞へ下りる道に入り、大原寺^{テウオンサ}へ向かう。少し先に蓬萊の滝へという道標はあった(14:25)が、道はヤブのなかに消えていた。廃道になったのかな。

14:53、舗装路に出た。正面にケーブルが架かった岩山(軍事施設?)を望み、急な坂道を下ると、見晴らしの良いところから道洞の港が箱庭のように見えた。ここで、スケッチタイム10分。この下でマーガレットのような花を咲かせている畑(除虫菊畑?)を目にする。15:37、お寺を拝観してから30分くらい下って民宿に戻り着く。

今日は朝7時から4時まで行動したので汗まみれだ。宿にはトイレ共用のシャワーが一つしかない。これは堪らんとしさんがサウナ(沐浴)を探してきてくれ、連れだっていく。入ってみれば日本の銭湯と同じだった。(女性のみタオル付きで@6000₩)ひと風呂浴びてさっぱりした体でそのまま夕食へ。今夜も生簀のイカとヒラメを指差して、刺身三昧だった(計10万₩)。



ヒラメ、イカ、ホヤ、サザエの刺身盛り合わせ

◆9月1日 島の観光のあと鬱陵島→船→浦項→バス→老圃(釜山)→地下鉄→久瑞(泊)

午前中は島内散策…と思ったが、今にも降りだしそうな天気だ。宿の女将さんは独島展望台^{ドクト}観光を勧める。そうか、昨日、軍事施設と思ったケーブルは展望台行きのものであったのだ。

宿に荷を預け、傘を持って初日とは反対側の海岸散策路を少しだけ歩いてスケッチに専念していると雨が降り出した。あわてて船のターミナルに戻り雨宿りとなった。いつまで待っても止む気配はなく、本降りの雨の中、お土産を買いに出る。ウルルンド特産のスルメの特上品(10枚入り35,000₩)とカボチャのゼリー(5,000₩)を買い求めた。土産品を宿に置いて、大雨は降り続く。昨日美味しい刺身を食べたので、昼は中国料理店のジャージャー麺(@5,500₩)で済ませ港へ行く。

出航は15:00で、雨も止んで順調に19:20浦項に到着、港に停まっていたタクシーは「バスターミナ



筆者のスケッチ ①は独島展望台へのケーブル ②は軍事施設? ③道洞市街





城壁の向こうに姑堂峰



姑堂峰(802m)山頂

ルまで」というと乗車拒否、「バスに乗れ」とのことだ。大通りで流しのタクシーを拾えて(7,000₩)、バスターミナルへ。明日の行動を考えて15分ごとに出るバスで老圃まで行く。老圃の案内所で宿を聞くと、「久瑞^{クソン}には宿が沢山ある」というので、地下鉄で4つ先の久瑞駅前^{クソン}で宿を探す。Yajaホテル(ダブルベッド2部屋@50000₩)に泊まれた。

◆9月2日 久瑞→温泉場駅→金井山ハイキング→久瑞→チャガルチのホテルへ

7:23発久瑞から地下鉄で温泉場^{オンチョンジョン}7:30着へ行き、ケーブルのある金剛山公園^{クムガンサンコンオン}まで歩く。公園には日本の蛮行を糾弾する石碑が建てられていた。始発が9時というので、1時間も待った。「植物園を見ようヨ」とS姉は誘うが「体力温存のためNG」と私。

ケーブル(片道5,000₩)を降りて、城壁に沿って北へ車道を、東門からは登山路を金井山へ向かう。この山の城壁は豊臣秀吉の出兵に備えて造られたものだ。カシワやカエデの木が多く、ハギの咲く遊歩道をゆるゆる行く。第2望楼でお茶タイム(9:40～50)東門下の案内所で登山地図を入手(10:30)。城壁沿いの道を歩いて東門で小休止。

北門まで4.2kmは城壁の下^下の林間の巻き道を40分歩き、展望のよい尾根道に出た。オミナエシ、ハギ、ワレモコウ、ススキ、ソバナ、カワラナデシコなど秋草の咲く道だ。来し方を振り返れば、花崗岩に松が点景となるミニ六甲という風景が広がっていた。12:06第4望楼に到着。行く手には延々と尾根を這いのぼる城壁が眺められた。がんばって金井山

682m天暁峰に登り着く(12:30)。ここから北門まで20分かかる。

S姉は過去に西側の沢から姑堂峰に登ったことがあるとか。当時は階段など全く整備されていなく完全なる岩登りだったので、今回、山頂部に至る最後の岩が出てくるところで「関根さんは大丈夫かな」と心配していたそう。

それが北門の先の岩場も山頂まで木の階段が設置されて、岩場が苦手なわたしでも安心！というか味気なく感じるほどの階段登りで最高峰802mの姑堂峰^{コダンボン}に立てたのだ(13:40)。

城壁はぐるっと17kmもあるそうだ。釜山市街地やゆったりと流れる洛東江などを俯瞰してのランチタイムで、平日でも結構ハイカーがいる。山頂に山名を刻んだ石碑という景色は、聖人峰と同じパターンだ。

韓国一の大河洛東江^{ラクトガン}の源流は春に登った太白山^{テベグサン}だ。朝鮮半島の背稜山脈＝白頭大幹は北朝鮮から南下して、春に訪れた太白山から南へ延びるのと西へ小白山から智異山へ続くのと2ルートある。釜山の北にあるここ金井山は、日本海(東海)に沿って南下しているルートの南端に位置している。つまり、私はこれで洛東江の頭としっぽにあたる2つの頂に登らせてもらったことになるのだ。

下山は北門14:33発から禅宗の総本山、1300年前の創建の古刹梵魚寺^{ボモサ}へ1時間で下った。東萊温泉入浴は諦めて15:39発バス乗車7分の梵魚寺駅から久瑞に戻る。ホテルに預けておいた荷物を

ピックアップして、地下鉄1号線でチャガルチへ向かう。最終日だけちゃんとしたホテルをとS姉が予約しておいたホテルノア(ツイン2部屋で1人当たり4300円)は、賑やかな市場の近くで駅にも近い便利なところにあった。汗を流した後は、待望のグルメ…。

ホテルの前にある刺身専門の店で、ヒラメやイカ、その他たらふく食べた。(203,000¥)食後、チャガルチの魚市場を見に行く。立派な太刀魚が並んでいた。市場の中には並べている魚介類をその場で料理して酒を飲ませる店がたくさん入っていて、どの店も客で大賑わいだった。

◆9月3日 宿→バス→釜山・金海空港へ

「地下鉄・リムジンバス、どちらがいい？」とフロントで聞く。「バスが乗り換えもなく便利ですよ」と言われて、6:15のバス(4000¥)で空港へ行く。ホテルの朝食は7時からなので残念ながらバス。空港行きは30分毎にあるので、渋滞さえなければ便利だ。値段は少し高いが、バスは地下鉄

と同じ経路を走っているようで街の景色が眺められて楽しめた。

7時過ぎに空港に到着、機内預け搭乗手続きをしてから朝食にする。フライトも順調で午後3時には自宅に帰れた。

今回レートは低かったが、チケット代と山行費で7万円弱…、外国でのハイキングとグルメの旅6日間で、費用もホドホドだろう。年配の私たちには、年金にも優しく手頃な異国の山旅だと思う。山よりも困難なのは、ハングル=言葉の壁なのだが、わたしはすべて人任せで…。韓国の公共交通機関は総じて格安だが、鬱陵島への船賃が往復で1万円以上、これが一番の出費だった。

雨にもふられたが、登山の日には天気に恵まれ、リウマチの身をかかえながらも無事に歩けたのが何よりだ。初めての釜山グルメも堪能、またいきたいな。

さて、次はどこへ？お誘いがくるのが楽しみ！

(※写真は前回、今回とも上野和夫氏提供)

◆'わんりい'活動報告

「第18回町田発国際ボランティア祭・2015夢広場」

於:まちの駅・ぽっぽ町田 イベント広場 2015年11月3日(祝)

野外での活動はお天気の予想が一番気になることだ。しかし、流石に「晴の特異日・11月3日」で、前日の雨もよいの肌寒い天気と打って変わった秋晴の、風もない穏やかな日とで、ブースの真正面から陽射しを受けて暑い位だった。

「夢広場」は、町田周辺で国際支援と友好活動を展開している20団体が「町田発国際ボランティア祭・夢広場 実行委員会」を結成しての開催で、今年は出展とステージで20団体が参加した。昨年同様、一昨年改修された「まちの駅・ぽっぽ町田」のイベント広場での開催だったが、お天気に誘われて街に出た人たちが、ステージで繰り広げられる、日頃聞き慣れない楽器の音色や海外のダンスなどに惹き付けられてか、改修で手狭になった会場は昨年にも増して人が溢れ一日中にぎわった。

「わんりい」の会は、9月に中国に出掛けた会のメンバーたちが購入した中国茶・色々を小分けにして袋詰めにした「中国茶・お楽しみセット」、餃子を一味引き



人の通行もままならない会場の混雑

立てる中国山西省産の黒酢・老陳酢やお正月用の珍味に加えて貰えればとピータンを販売。また、「'わんりい'日本の歌を美しく歌おう！ボイストレの会」講師のEmme^{エムメ}さんに、特別出場でボイストレ体験の指導をしてもらった。参加の皆さんたちはEmmeさんの体全体を使った指導に合わせて、思う存分に声を出したり、



歌を歌ったりで、はればれとした笑顔でボイストレの楽しさを味わった。

ニューヨークでの公演前のお忙しい中、遠方からはるばると町田までお出かけ下さった

日中の若者(華さんとEmmeさん)が民族衣装姿で舞台の進行を務めた。Emmeさんには感謝したい。また、一日中、ステージの進行係を務めた国土舘大学4年生の鍾嘉辰さん、高校3年生の木村華さん、ご苦労様でした。



Emmeさんの体当たりのボイストレ指導風景

《'わんりい' 掲示板 I》

◆わんりいの催し

留学生たちとチゲ鍋を囲んで交流しよう会

アジア諸国から日本を選んで留学中の皆さんは、勉学に励むかたわら新鮮な眼差しで日本を見つめ、学校やアルバイト体験を通して日本への理解を深めています。寒い季節、体も心もほっこり温くなるチゲ鍋を一緒につつきながら、私たちも留学生の皆さんたちの気持ちや体験を伺ったり、お国や家族の話話を話して頂いたり等、楽しく交流する機会にしましょう。

- 場所：まちだ中央公民館6F・調理実習室
- 月日：2016年1月17日(日) ●時間：11:30～14:30(予定)
- 会費：1500円(会場費・材料代など、留学生は無料です)
- 定員：先着15名(留学生を除く)
- ◆申込み：☎042-734-5100(わんりい) E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp



◆わんりいの催し

ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体の力を抜いて、気持ちよく発声しよう!!

- ▲12月の講座：15日(火) まちだ中央公民館・音楽室1
- ▲時間 10:00～11:30

★動きやすい服装でご参加ください

- 1月の練習曲「庭の千草」
- 講師：Emme(歌手)
- 会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- 定員：15名(原則として)

- ◆申込み：☎042-735-7187(鈴木)
- E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)



◆わんりいの催し

中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!

- ▲12月の講座：20日(日) ▲1月の講座：17日(日)
- ▲場所：まちだ中央公民館 第3・4学習室
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲講師：植田渥雄先生

(現桜美林大学孔子学院講師)

- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

- ◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)
- E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)



恒例! 'わんりい'新年会日取り決定!!

2016 'わんりい'新年会・シュワンヤンロウで新年を祝おう

場所：麻生市民館・料理室(小田急線・新百合ヶ丘下車北口3分麻生総合庁舎内)
2016年2月7日(日) 11:00～14:00

- 定員：先着40名('わんりい'会員と関係者のみ。お早めにお申込下さい)
- 参加費：1500円(会場費 シュワンヤンロウ材料及び福引景品購入)
- 申込：メール：wanli@jcom.home.ne.jp TEL/FAX：042-734-5100



2015年度 和光大学レクチャーコンサート

「初めての現代音楽」

http://www.m-shimin-hall.jp/products/detail.php?product_id=2158

講師・演奏：新垣隆（作曲家、ピアニスト）

講師・解説：山本和智（作曲家、和光大学表現学部非常勤講師）

司会：中田崇（和光大学表現学部教授）

■公演日2016年1月27日（水）

18：30～20：30（17：45開場）

和光大学ポプリホール鶴川（地下2階ホール）

●一般 200名 受講料1000円

●学生（中・高・大）80名 無料

◆お申込み方法：ハガキ、FAXまたはE-mailいずれかで、「レクチャーコンサート2015」と明記し、

①氏名（フリガナ）、②郵便番号・住所、③電話番号を必ず記入し、1月20日（水）までに下記へ。学生は学生証のコピーを付ける。電話での申し込みは不可。

「和光大学企画広報係 大学開放センター」

195-8585 町田市金井町2160

TEL：044-988-1433 FAX：044-988-1594

E-mail: open@wako.ac.jp

初心者のための水墨画教室

【鶴川水墨画教室】体験のお誘い

来年の干支・申を描いてみよう！

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験してみませんか。12月も、来年の干支を指導します。2015年の年賀状に手描きで羊を描いてみましょう！

●講師：満柏（日中水墨協会会長）

●場所：市民センター（駐車場有）
〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4

●曜日・時間：毎月第2、第4（月）
14:00～16:00

●体験参加費：1000円
見学：無料

●問合せ：野島
☎042-735-6135



中国少数民族衣装展

http://i-amusee.com/atsukobarou/schedule/2015/1205_3359.php

●2015年12月5日（土）～12月20日（日）
水・土14：00～21：00 日・月11：00～18：00

▲定休日：火 ●500円（1ドリンク付）

●アツコバラー arts drinks talk
（150-0046 渋谷区松濤1-29-1 クロスロードビル5F Bunkamura隣）◆問合せ：☎03-6427-8048

2015年12の定例会と新年号・おたより発送日

◆場所：三輪センター・第三会議室

◆定例会：12月8日（火）13:30～

◆新年号のおたより発送日：12月28日（月）10：30～

★お弁当持参ください ●問合せ：☎042-734-5100

オペラ歌手（バリトン）崔宗宝さんの

「2016年ニューイヤーコンサート2題」

※収益金の一部は「崔宗宝東日本震災支援奨学基金」に寄付されます

●その1. 第1回 大和ニューイヤーコンサート

崔宗宝、佐々木三夏バレエアカデミー/ハッピーマッキーSAX
カルテット/根本真澄（ソプラノ）/アズマ・グルナラ（ピアノ）

▲大和市保健福祉センターホール

▲2016年1月10日（日）18:30開演（18:00開場）

▲2,999円 ペア券 5,000円

●その2. 第5回 海老名ニューイヤーコンサート

<http://www.ebican.jp/topics/158.html>

崔宗宝、森麻季（ソプラノ）/川田直輝（バリトン）
根本真澄（ソプラノ）/山岸茂人（ピアノ）

▲海老名文化会館大ホール

▲2016年1月17日（日）15:30開演（14:30開場）

▲S席4,000円、A席3,000円 当日券500円増

◆予約申込 ☎046-240-0836（崔宗宝音楽事務所）

世界が相手の小演明人 尺八・ソロ演奏ライブ

今回のゲスト：伊藤多喜雄（民謡歌手）

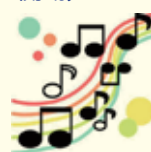
●2015年12月18日（金）19:00～（18:00開場）

●会場：ムリウイ（世田谷区祖師谷4-1-22-3F）

☎03-5429-2033

●参加費：予約3000円+1ドリンク

●申込：オバマ（Fax:03-3867-8303）



皆さま、お元気でよい年を迎えられますように！！

‘わんりい’ 209号の主な目次

北京雑感99 大観園	2
論語断片⑩己に如かざる者を友とする無かれ	3
媛媛讲故事(80)「狐の婚礼Ⅱ」	4
諺・慣用句(45)「一暴十寒」	6
詩人尹世霖の童詩の世界⑧「飛行機」「石榴の花」	7
元寇と鷹島(3)	8
中国の笑い話26	10
鄧さんの観光ガイド⑦「解州関帝廟」	11
モンゴル私観	14
スリランカ紀行④「カタラガマ・パズル」	16
第28回「東京国際映画祭」でフィリピン映画を見る	18
中国の茶文化はすごい!	19
韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(2)	20
活動報告「町田発国際ボランティア祭・2015夢広場」	22
‘わんりい’掲示板	23・24